

1. 研究主題

学習の楽しさを味わい、主体的に学ぶ子どもの育成
～説明的文章の読みを通して思考力を高める国語科学習指導の工夫～

2. 研究主題設定の理由

児童の実態から、基礎学力の定着に課題が見られ、文章の内容を確かに読み取ったり、自分の思いや考えを言葉で説明したりする力が十分ではないと把握できている。

そこで昨年度に引き続き、国語科の「読むこと」に重点を置き、指導者が確かな読みの方策を身に付け、学ぶ楽しさを味わい、主体的に学ぶ子どもの育成を目指していきたい。

学ぶ楽しさ
とは

『分かる授業から生まれる』⇒『学ぶ楽しさ』

- 明確な課題提示により、知的好奇心が喚起され、追究したい気持ちになったとき
- 追求したい課題について、自分の考えをもてたとき
- 自分の考えた過程を友達と共有し、共感・納得・深まったとき

楽しさは、言語の意味を知識として記憶するだけでなく、言語で表現されたことを理解し、既習事項や生活経験に基づいて解釈することから楽しさが生まれる。叙述の内容をこれまで身に付けた言語感覚で受け止め、目的に応じて的確に理解し、自分なりに豊かに想像することから楽しさが生み出されると考える。

本時の工夫

子どもたちの問題意識と学習の目標が合致したとき、子どもたちは自ら動き出し、言葉への関心を高めつつ、意欲的に学習に取り組む。この瞬間に学習の楽しさが生まれると考える。

相手意識をもった楽しさ・単元のゴールに向かう学ぶ過程の楽しさ・分かる楽しさ

課題提示→読み（認識）→意見交流（表現）→あれっ？（問題意識）＝学習の目標

活動のゴール・〇〇作り等

単元構成の工夫

はじめ

説明的文章の読みを経て、学習のゴールに児童が楽しさを感じる活動を構成する。そのことで児童に深く読み取ろうという意識が生まれる。

効果的な言語活動の設定や単元計画の工夫を進め、国語科の授業の充実を図ることで児童の学力向上を目指したいと考え、本研究主題を設定する。

主体的に学ぶ姿 とは

学習課題や自分の立てた問いの解決に向けて、単元のゴールイメージや問題解決の見通しをもたせ、自分の読みを叙述から説明しようとする姿と捉える。

また、学習活動において教材と真剣に向き合ったり友達と試行錯誤したりしながら課題や問いを解決し、新しい課題を見出して学びの連続性をつくり出す姿と捉える。

授業を焦点化するとは、本単元・本時における身に付けさせたい力を明確にすることである。本時の指導事項を絞ることによって授業をシンプルにする。指導案の冒頭に本時の主張を明記

3. 研究主題の具体化

(1) 研究仮説

説明的文章の授業づくりを通して、思考力（言葉による見方・考え方）を豊かにし、子どもが言葉や言葉同士の関係に着目して、意味付けを図るようにする。加えて、言葉へのこだわりをもたせ、筆者の意図を理解させる。このような言葉の力を育てていくことで、確かな読みの力を身に付け、豊かに思いを表現する子どもの育成ができると考える。

(2) 研究の視点

視点1 一人一人が主体的な学びを生み出すための学習展開

確かな言葉を学んでいく児童を育てるために、教材研究を大事にしていきたい。そして、国語の力はもちろん、興味や関心を含めた児童の実態把握と細かな教材分析に基づいた学習のねらいを明確にすることが大前提である。

それを土台に児童が意欲的に取り組むことができ、学習のねらいにも則した言語活動や教材との出会わせ方を考えていく。学び合いの場では、個々の問題意識と学習のねらいが合致したとき、児童は主体的に動き出し、言葉への関心を高めつつ、意欲的に取り組むと考える。

協議の視点1

本授業における主体的な学びを生み出すための学習展開は適切であったか。

視点2 一人一人の思考力を高めるための指導者のかかわり

文章を読むとき、児童は教科書の言葉だけではなく、生活経験や想像したことを総合して考えていく。そのため同じ言葉に接しても、児童によって読み取りの違いがあり、また同じことを表現しようとしても、使う言葉に違いが見られる。指導者は、児童の考えの違いを際立たせたり、価値付けたりすることにより、児童の読みを深めることができると考える。そこで、児童が読む面白さを味わえるようなさまざまな言語活動を、相手や目的を変えながら繰り返し入れるなど手立を工夫することで日常に生きる言葉の力を育むことができると考える。

協議の視点2

本授業における一人一人の見方や考え方を高めるための指導者のかかわりは適切であったか。

5. めざす児童像

学びの楽しさを見出せる児童
主体的に学ぼうとする児童

- 楽しい：叙述にそって、文章を正確に読むことができることで「分かった」が生まれる。
○主体的：叙述をもとに根拠を明確にし、自分の考えをもつことができる。

各分科会の重点項目

低学年分科会	中学年分科会	高学年分科会
時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、 <u>内容の大体</u> を捉えることができる。	段落の相互関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係を捉え、中心となる語や文を見付けて <u>要約</u> することができる。	事実と感想、意見等との関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて <u>要旨</u> を把握することができる。

6. 読解力の素地を育成するための日常的な活動での指導

- (1) 学習規律の徹底
- (2) 基礎学力の定着 ベーシックタイム（短時間学習）における漢字・語彙力を高める指導
- (3) 読書活動の取組
- (4) 詩の掲示およびふれあい掲示板の活用

7. 検証方法

研究授業より検証【付箋 ①疑問（黄） ②自分だったら（赤） ③よい点について（青）】

- ・全校研・・・研究推進部提案＋各分科会代表 <年4回>
各部会で指導案作成⇒研究推進部検討会⇒授業1週前に講師に指導案送付（メール）⇒実践授業⇒研究協議⇒単元終了後、分科会で成果と課題をまとめる。
- ・部内研究授業・・・各分科会代表（全校研を実施しない学年） <年3回>
分科会による指導案検討⇒実践授業⇒分科会でのふり返り（分科会以外の参観者は付箋を記入して授業者へ渡す）⇒単元終了後に分科会で成果と課題をまとめる。